「ＮＰＯ法人バイオライフ」今後の取組み方針　・・・自給率の低い食料とエネルギーの地元生産増加策

【目的】
日本において自給率の極めて低い食料とエネルギー(4%)の地元生産を増加させる取組みをし、全国に先んじてモデルとなる自立した国内自給型事業を構築する。

【取組み方法】
①バイオライフがパイプ役となり、地域の農業関係者（農家や農業生産法人など）、企業そして行政その他との連携を 図り、事業全体をプロデュースするかたちで生産量を増加させていく。
②近隣地域にこの取組みを積極的にＰＲしながら常に参画者を募集していく。

【対象】

①栽倍増を見込む作物

作 物	自給率（2007年度）	自給率（2008年度）	主な利用目的
油糧作物 (菜種，ひまわり，亜麻仁)	2%	3%	植物油，油粕の飼料＆肥料，菜種は菜花＆間引き菜，廃食油をＢＤＦ化，亜麻仁のお茶，ひまわりの紙
小麦，大麦	14%，9%	14%，？%	小麦粉－パン･麺･お菓子など，麦茶，ビール，食用麦
大豆	5%	*29%	枝豆，味噌，醤油，納豆，豆腐，おから食品，おからの飼料＆肥料，おからをＢＥ化
飼料米	飼料25%	？%	家畜の餌（直飼料＆発酵粗飼料），米粉－パン･麺･お菓子など，藁をＢＥ化

*大豆の自給率増は、9割以上食用油原料としての輸入減による。（生産増3.5万トン，輸入減45万トン）

②再生可能エネルギー
■太陽光発電；耕作不可地で　■バイオマス発電；植物由来の廃棄物から　■ＢＤＦ；廃食油の回収から　■バイオエタノール；おからや藻など利用技術導入

【作物の栽培体系】　・・・　耕作放棄地や休耕田畑の年間を通しての有効利用促進を図る

①菜種－飼料米（田んぼ）

＜菜種＞
･10月播種
･1～2月菜花,間引き菜利用
･6月収穫

＜飼料米＞
･6月播種（直播検討）
･10月収穫

②菜種－亜麻仁（畑）

＜菜種＞
･10月播種
･1～2月菜花,間引き菜利用
･6月収穫

＜亜麻仁＞
･7月播種
･10月収穫

③ひまわり－小麦or大麦（畑）

＜ひまわり＞
･6月播種
･10月収穫

＜小麦＞
･11月播種
･6月収穫

＜大麦＞
･11月播種
･5月収穫

④大豆－小麦or大麦（畑）

＜大豆＞
･6月播種
･9月1部枝豆で収穫
･10～11月収穫

＜小麦＞
･11月播種
･6月収穫

＜大麦＞
･11月播種
･5月収穫

《バイオライフが目指す今後の取り組み方針》